

3

目指すくるめの姿



くるめ生きものプランの目指す将来しょうらいはどうなっているのかな。

1. 生きものプランが目指すくるめの姿

生きものがいなくなると、自然から受けているめぐみがなくなれば、私たちの暮らしは成り立ちません。今、久留米市ちくごがわにある筑後川や耳納山地などの豊かな自然をこれ以上減らさないように、守り育てます。また、生物多様性国家戦略せいんりゃくならびに福岡県生物多様性戦略の長期目標年次と合わせ、2050年までに「**自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ**」を目指します。

2. 自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ とは

自然とふれあい、自然と生きるまち くるめはどのような姿をしているでしょう。市内を【街なか】、【田園】、【山林】の3つに分け、望ましい将来の姿をまとめてみました。

将来の街なかの姿

道路には、いろいろな種類の木が植えてあり、公園は人だけでなく、他の生きものにとっても、住みやすい工夫がされているなど、いたるところで生物多様性のことを考えた緑化が行われています。

まとまった緑は、生きものすみかや休む場所となり、街なかで生きもの観察ができます。

自転車で街なかをめぐるたり、サイクリングの環境が整い、多くの人々が自転車りようを利用しています。



将来の田園の姿

みんなが農業への理解を深め、農地や水路などの保全活動ほぜんに参加するなど、豊かな田園が守られています。

その豊かな田園地帯では、環境のことを考えた農業が行われ、そこで作られたいろいろな農作物により、私たちの食卓はより豊かになっています。

また、多くの生きものすみかとなり、さまざまな生きものがいます。

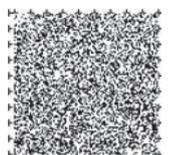


将来の山林の姿

耳納山地などのまとまった森林が、多くの生きものを育て、水源として守られています。

また、生きものすることを考えた林業や森林ボランティア活動により、自然が守られ、クマタカやムササビなどがすんでいます。

豊かな生物多様性を活かした観察会や、イベントが開催され、週末には市外からも多くの人々が訪れます。



3. 私たちがすぐにでも始めるべき行動

自然とふれあい、自然と生きるまちくるめを実現させるために、
私たちにできることはたくさんあるよ。
どんなことがあるのかな？



身近な自然や生きものとふれあう

✓ 自然観察や自然体験の機会を増やしましょう。

私たちの生活は、昔に比べ便利で快適なものになりました。
しかし、その一方で、多くの生きものがいなくなっている原因の1つとなっています。

私たちは、生きものがいなくなっていく状況や自然とのつながりを目で見ることはできません。生きもののことを思い、生きものがいなくなった世界を想像する力を養う必要があります。

そのためには、自然観察や自然体験の機会を増やすなど、日頃から、身近な自然や生きものと積極的にふれあい、身体で感じる事が大切です。



環境美化活動を行う

✓ 地域の清掃活動などに参加しよう。



久留米市では、地域で行われる一斉清掃、企業などによる周辺道路のごみ拾い、筑後川河川敷で行われるノーポイ運動や環境美化ボランティア制度「くるめクリーンパートナー」の登録者の人たちがごみを拾うなど、いろいろな環境美化活動が行われています。

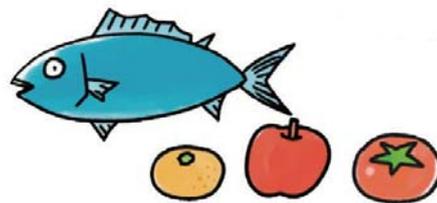
これらの活動は、手の届く身近な環境を守り、自然を育てていくことにつながります。

環境のことを考えた消費者になる

✓ 地元産の食材を選んで料理しよう。

地元でとれた旬の野菜や果物などを味わうことで、季節の移り変わりや、自然のめぐみの大切さを感じましょう。このように地元で取れた食材を地元で食べることを「地産地消」といいます。

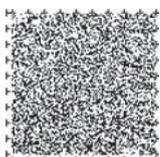
「地産地消」は輸送や保存などに必要なエネルギーが減り、温暖化をやわらげることにもつながります。



✓ ペットは最後まで飼おう。

ペットのなかには、もともと久留米市にすんでいない生きものもいます。そのような生きものを野外に放すと、もともからいた生きものに悪い影響を与えてしまう可能性があります。

ペットを飼い始めたら、最後まで面倒をみる事が、飼い主の責任です。



しげん 資源を大切に使う



しゅってん
出典:環境省「こども環境白書2016」より

☑ しょう 省エネ(温暖化緩和策)に取り組もう。

生きものは季節を感じながら生きています。温暖化などにより気温が上がると、自然に影響を与え、生きものがいなくなってしまうといわれています。また、今みんなが使っているエネルギーには限りがあります。

使わない電気は消す、水は出しっぱなしにしないといった取り組みも生きものを守ることに繋がります。

☑ 3Rにチャレンジしよう。

ごみの量(りょう)を減らす(Reduce)・くり返し使う(Reuse)・再び利用する(Recycle)という、資源を大切に使うための行動のことを、初めの文字「R」をとって、「3R」といいます。ごみを減らすことは、自然のめぐみを大切に使うことになり、生きものを守っていくことにつながります。

☑ もったいないをさがそう。

自然から得(え)られるめぐみには限りがあります。
身の回り(まわり)で、無駄(むだ)になっている資源はありますか？
食べもの(たべもの)に感謝(かんしゃ)して、ご飯(ごこ)を残(のこ)さない。
無駄(むだ)なものは使(つか)わないといった行動は、自然を大切に
し、生きものを守ることに繋がります。



出典:環境省「こども環境白書2016」より

4. ちい 地域連携保全活動

各地(かくち)で耕(たが)や管理(かんり)されていない山林(ふ)が増(ふ)えていると言(い)われています。人間(ひと)が手(て)を加(く)えなくな(な)った山林(ふ)では、竹(たけ)や笹(ささ)が増(ふ)えたり、大(お)きな木(き)が増(ふ)えたりして、日(ひ)の光(ひかり)が届(とど)かない暗(くろ)い林(りん)になることがあ(あ)ります。

水田(みづ)周辺(へ)では、管理(かんり)が行(い)き届(とど)かず、水(みづ)辺(へ)の環(か)境(きょう)が変(か)わることがあ(あ)ります。

このよ(よ)うな変(か)化(か)によ(よ)って、里(さと)地(ぢ)里(り)山(さん)の生(せい)きものバ(ば)ラン(らん)ス(す)が崩(くず)れ、も(も)とも(と)いた生(せい)きもの(もの)が(が)い(い)なくな(な)っ(っ)て(て)し(し)ま(ま)う(う)お(お)そ(そ)れ(れ)が(が)あ(あ)り(り)ま(ま)す(す)。



昔(むかし)と比(ひ)べて、自(じ)然(ぜん)と人(ひと)の関(か)わり(わり)が少(すく)なくな(な)ったから、里(さと)地(ぢ)里(り)山(さん)の生(せい)物(ぶつ)多(た)様(よう)性(せい)が危(あぶ)ないと言(い)わ(わ)れ(れ)て(て)い(い)る(る)ん(ん)だ(だ)。

里(り)地(ぢ)里(り)山(さん)を(を)守(まも)る(る)取(と)り組(ぐ)み(み)と(と)して、地(ち)域(いき)連(れん)携(けい)保(ほ)全(ぜん)活(かつ)動(どう)が注(ちゅう)目(め)を(を)集(あ)め(め)て(て)い(い)ま(ま)す(す)。

地(ち)域(いき)連(れん)携(けい)保(ほ)全(ぜん)活(かつ)動(どう)と(と)は、農(た)業(ぎょう)団(だん)体(たい)やNPO、事(じ)業(ぎょう)者(しゃ)や地(ぢ)域(いき)住(じゅう)民(みん)が一(いっ)緒(しょ)にな(な)って山(さん)林(りん)の管(かん)理(り)を(を)行(い)っ(っ)た(た)り、た(た)め(め)池(いけ)や水(みづ)路(ろ)の草(くさ)刈(き)りや清(きよ)掃(そう)活(かつ)動(どう)を(を)行(い)う(う)こ(こ)と(と)を(を)指(さ)し(し)ま(ま)す(す)。



こ(こ)う(う)い(い)う(う)取(と)り組(ぐ)み(み)が(が)広(ひろ)が(が)る(る)と(と)
自(じ)然(ぜん)とふ(ふ)れ(れ)あ(あ)い、自(じ)然(ぜん)と生(せい)き(き)る(る)ま(ま)ち(ち)く(く)る(る)め(め)に(に)近(ちか)づく(く)よ(よ)。
み(み)ん(ん)な(な)も(も)で(で)き(き)る(る)こ(こ)と(と)か(か)ら(ら)始(はじ)め(め)て(て)み(み)よう(よう)!!

